



テレマカシー

vol. **18**
2008.10.20発行

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

北の大地から

ひばりクリニック・うりずん
高橋 昭彦



はじめて北海道へ行ったのは小学4年生のときだった
ここは大学時代に何度も通ったお気に入りの地である

北海道の人はやさしい
厳しい環境にあると人はやさしくなるのだろうか
訪れた同級生の家で熱を出して寝込んだことがあった
たまたま稚内からノシャップ岬行きのバスで、
隣同士だった人にも親切にいただいた
北海道にいると自分もやさしくなれるような気がした

一度はあきらめかけていた北海道行きだったが、
今回、無事に北の大地を訪れることができたのは
幸運と多くの人たちのお蔭である
寝台特急北斗星の窓から、カシオペア座が見えた
稚内で知り合った人とも再会した
秋の味覚も、ほどほどにいただいた
北の大地よ、ありがとう



旭山動物園訪問記(北海道旭川市) ～動物もスタッフも生き生きと～

522,389人。これは2008年8月に旭山動物園を訪れた人の数である。そこはこれまでの動物園のイメージを一新する所だった。ひと言で言う動物もスタッフも生き生きとしている。動物館には、上から、横からなど、観客が視点を変えて観察ができる構造と、動物の興味をそそる仕掛けがある。動物は自由に動き、人々は歓声をあげ、食べ物やお土産を買ってお金を落とす。これは動物とスタッフ、そして観客の共同作業なのかもしれない。

ゴミひとつ落ちていない園内には、スタッフのアイデア満載の案内板が立つ。ヒグマなどがある「もうじゅう館」には、「ヒグマに会わないためには」「それでも出会っちゃったら」「もし襲われたら」という表示がある。思わず真剣に見入ってしまう。もし森でヒグマに出会ってしまったら、「あわてず、絶対に刺激せず、背を向けずにゆっくりと下がらしましょう」とある。できれば会わないでいたいものだ。

動物の特徴的な行動は食べる時に見られる。その様子を公



▲アザラシがマリンウエイ(円柱水槽)を通ると歓声があがる

開するのが「もぐもぐタイム」である。圧巻はホッキョクグマのもぐもぐタイム。水中に落とされた餌の魚をめがけて巨大なホッキョクグマがダイブする。水中の様子はガラス越しに見えるようになっ



▲泳ぐホッキョクグマの動きは意外に敏捷でいて、巧みに泳ぎながら魚を食べる様子に歓声があがる。ちなみにホッキョクグマは「polar bear」というが、地球温暖化から絶滅が危惧されている。

写真撮影は禁止されていないが、フラッシュは動物の目を傷めるため厳禁である。しかし不注意からフラッシュがたかれてしまう現象は絶えない。スタッフが何度も何度も根気強く注意している。共存には、私たち観客側のモラルも問われるのである。

旭山動物園の園長は、北大柔道部出身で獣医師の小菅正夫さん。「動物たちがつらそうに見えたら、その動物園は負けだ」という小菅さんの言葉に、自信と愛情を感じる。機会があればまた訪れてみたい。

医療的ケアが必要な子どもを育む取り組み

～ 学校行事に親は必要なのか～

修学旅行や宿泊学習は、授業とはまた違った体験ができる貴重な学校行事である。しかし、医療的ケアが必要な子どもの学校行事には、親が付き添うことを求められることが多い。

日光市に住む圭祐(けいすけ)くんは、気管切開の状態ですべての学校行事に通う小学6年生である。5年生のときに、2泊3日の臨海自然教室があった。親が付き添わない状態を望んだ両親は、男性の付き添いボランティアを募集した。その募集を見た荒井広美さん(看護師・男性)が平日に休みを取り、ボランティアで同行したのである。

お蔭で圭祐くんは、心配されていたお風呂も何の問題もなく過ごせた。この経験は、圭祐くんばかりでなく、両親にとっても大きな自信となった。その後開かれた支援会議で、6年生の修学旅行の話

になり、臨海自然教室での様子や本人の成長を踏まえて、学校側から保護者の付き添いなしでやりたいという意見もあり前向きな検討が行われた。

その結果、これまで引率が認められなかった学校看護師が修学旅行では引率が認められることになった。親の決意、荒井さんの行動、それを受けての圭祐くんの成長が、学校や行政を動かしたのである。

*

今年の5月、圭祐くんは鎌倉と東京ディズニーランドへ修学旅行を楽しんだ。ホテルのユニットバスでは1人で入浴し、看護師の部屋で消毒をしてもらったあとは、圭祐くんは友達と2人部屋に泊まったのである。

*



▲臨海自然教室を楽しむ圭祐くん(中央)と同行した荒井さん(右奥)

屋で消毒をしてもらったあとは、圭祐くんは友達と2人部屋に泊まったのである。

うりずん日記

うりずん サービス管理責任者
看護師 三上 綾子



うりずんが6月にオープンして、早4ヶ月になります。その間、夏休みという長期の休みも入り、利用希望者が増えました。現在登録者は8名で、年齢は1歳～15歳の方々がご利用になっています。

そのような現状で、皆様にとってレスパイトという昼間の預かりで得られる満足度はいかがなものか……という点が、そろそろ気になってきました。

とても嬉しいことに、皆様うりずんの利用を楽しみにしておられたり、楽しく過ごしてきた様子をご自宅で感じられるというお言葉をいただいています。

ボランティアや利用者・家族を含む多くの皆様に支えられながら、最近やっと、「なんとか軌道に乗ってきたかな?」という実感を、少しずつ噛み締めることが出来るようになりました。うりずんご利用の皆様ならびに温かいお気持ちで支えてく



▲作品づくりに挑戦するなつみさん(左)とたけるくんの作品「秋」



▲音楽を楽しむたけるくんとなつみさん

には、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。応援してくださっている皆様に活動の様子を少し紹介いたします。

*

うりずんでは、その日のご利用者様の体調に合わせて、可能な範囲で楽しく過ごしていただくために、活動内容を臨機応変に変更しています。その中で最も大切にしていることは、ご本人たちに何をしたいか相談して、活動の内容を決めるということです。

活動内容のヒントを得るために、ご家族や普段関わっている方々にご本人が今、何に興味を持っているのか、何が好きそうかなどをリサーチして役立てるようにしています。一人一人にその時の「マイブーム」があり、その話を聞かせていただく

のも楽しいひと時です。個人の楽しめる活動をスタッフやボランティアの方と一緒に探すという行為は、秘密のおもちゃ箱をのぞくようでもありワクワクします。そして、本当に楽しんでもらえた時、ガッツポーズが思わず飛び出したり、笑いの渦がうりずんの部屋を満たします。

皆様が共通してお気に入りなご様子の内容は、意外にも特別な遊びではなく、手や足、体に触れながら、ただ語りかけ



▲最年少のゆうらくん



障がいだけでなく重度になると、厳しい現実が待っている。栃木県内のすべての特別支援学校(旧・盲聾養護学校)では学校看護師が配置されているが、学校の教諭は医療的ケアをしない方針になっているため、たとえ目の前の子どもにたんがつまっていたとしても学校看護師を呼ばないと吸引もできない。

さらに看護師の配置数も充分ではなく、学校行事には看護師がついていけないことになっていて、親は当然のように付き添いを求められる。また看護師の経験や力量にも差がみられ、人工呼吸器をつけた子どもに至ってはケアを任せられる看護師は少ない。

兵庫県で人工呼吸器をつけた状態で地域の学校に通い、今は自立した生活を送る平本歩さん(22歳)は、「中学校の頃から、他の友達は親が学校についてきていないのに、私だけ学校に親がついてきている。親が付き添うのは嫌だと思ふようになりました」と述べている。子ども自身の成長のためにも、親がいない状態ですべての学校生活を過ごすことを保障する仕組みが必要ではないだろうか。



▲読書するたかひろくん

るというものです。不思議なことに一人ひとりがとても真剣に耳を傾け、見つめるなど大変喜んでくれる様子が伝わってきます。大切なことは、ゆっくりと関わる時間を持つ

こと、個人として対等にお話をする。基本的なことなのですが、このご時世、人々(私も含め)は忙しく気持ちの上でも余裕がないために、なかなか出来なかつたりするんですね。



▲ボウリングで遊ぶ院長とゆうきさん



▲楽器を演奏するあかねさん

*
ご家族も介護で疲れると気持ちの上の余裕もなくなります。うりずんご利用の間に気持ちの余裕を取り戻し、またご利用者様と楽しいひと時を送れるようにしていただきたいものです。

うりずんでは、これからも原点に戻りながら楽しんでもらえる活動を探していきます。

日本死の臨床研究会より

最愛の親を亡くす子どもの気持ちに寄り添うこと

札 幌市で第32回日本死の臨床研究会が開かれました。この研究会は、死の臨床において患者や家族に対する真の援助の道を全人的立場より研究していくことが目的で、わが国のホスピス・緩和ケア関係では最も歴史ある集まりです。

参加してよかったと思うのが事例検討で、1つの事例発表と会場との意見交換に1時間かけるという実にいいなプログラムです。

ある病院の看護師からの発表でした。

小中学生の子ども之母である女性が末期がんとなり入院して亡くなりました。子どもたちのケアについては父親から「自分がやるから」と言われ、子どもたちの苦悩に寄り添えなかったという内容でした。

意見交換では、子どもへの関わりをどうするのか、積極的な介入をするのか、子どものグリーフケア(悲嘆ケア)をどうするのかなどについてやり取りがありました。

*

会 場から手があがりました。思春期のときに父親を亡くしている看護師でした。当時、面会に行く病棟の隅のほうで勉強のふりをしていたこと、「勉強しているのね」といわれるとただ頷いていたこと、本当はもう少し気づいてほしい、時間を取って声をかけてほしいと感じていたと発言がありました。

子どもには子どもなりに考えていることがあり、親には言えないこともあります。きっちりケアをしてほしいという気持ちを察して関わることも大切だと感じました。次回の研究会は2009年11月7-8日に名古屋市で開かれます。



アルフォンス・デーケンさんと再会
(デーケンさんと行ったアメリカホスピス研修が
ひばりクリニック開業のきっかけとなりました)

わっどわ〜く

北海道紀行

北海道大学のポプラ並木

20数年ぶりに訪れたポプラ並木は、2004年の台風により51本中19本が倒木、8本の幹が曲がるという甚大な被害を受けていました。北海道大学と再生プロジェクトに立ち上がった人たちにより、今では若木が育っています。



北大のポプラ並木
(手前には若木が育つ)



白樺が美しい北大構内

ひばりクリニック
ホームページ開設のお知らせ

- このたび、ひばりクリニックではホームページを開設いたしました。うりずんや高橋のブログもあります。ぜひご覧ください。
- ひばりクリニックホームページ
<http://hibari-clinic.com/>



テレマカシー17号へ寄せられた感想から

- テレマカシー17号をお送りいただき、その内容から「うりずん」の開設や畑の様子、そしてご利用なさっておられる宝石のような障害を持たれた子供達の様子に心を打たれました。(後略)
(日光市 齋藤睦子さん)
- (前略) 些細なことにとらわれて強張っている心に、そっと風が吹き込んで、ふっと息をついて肩の力を抜くことができる……毎号読ませていただくたびに、そんな経験を致します。まさに「うりずん」ですね。17号では、安西さんのお話にうなずいてしまいました。焦るような気持ちにすらなりません。(後略)
(埼玉県 吉川かおりさん)

- ♥ユニセフ募金・とちぎVネットボランティア緊急支援用募金ありがとうございました。ご支援いただいた募金は皆様のお気持ちとともにユニセフへ34,123円、とちぎVネットへ34,123円、総額68,246円をお渡しいたしました。ご協力ありがとうございました。
- ♥テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(_)>

「ひばりクリニック」のご案内

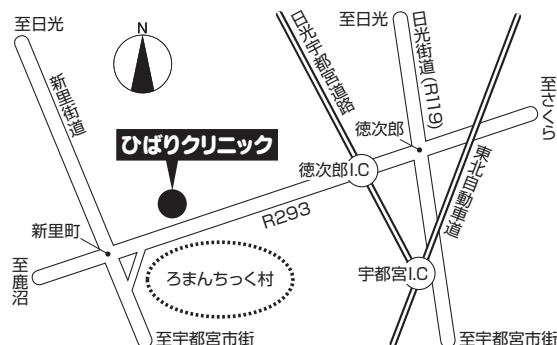
● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	(休)	○	○	(休)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休診)	訪問	訪問	(休診)	訪問		訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること

栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14
TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp
URL <http://hibari-clinic.com/>

この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。